P1-020

新規自己抗体である抗 SSNA-1 抗体についての解析

○蛭間香織¹, 野澤和久², 池田圭吾¹, 山口絢子², 関川 巖¹, Edward K Chan³, 高崎芳成²

(¹順天堂大学医学部附属浦安病院 膠原病リウマチ科, ²順天堂大学医学部附属順天堂医院 膠原病リウマチ科, ³Department of Oral Biology, University of Florida)

背景:我々は今回, 新規自己抗体である抗 SSNA-1 抗体の詳細な解析をする目的にて本研究を施行した. **方法:**各種自己抗体陽性患者の血清を用いて, 抗 SSNA-1 抗体の出現率及び抗 SSNA-1 抗体血清中の IP-10 と BAFF 濃度との相関について ELISA 法を用いて調べた. **結果:**抗 SS-A 抗体, 抗セントロメア抗体, 抗 U1-RNP 抗体陽性患者血清において抗 SSNA-1 抗体の出現頻度が高く, 疾患としては原発性シェーグレン患者と MCTD 患者において出現頻度が高かった. 抗 SSNA-1 抗体陽性群では陰性群に比べて血清中の IP-10 と BAFF 濃度が高濃度であった. また, 免疫蛍光染色では分裂期の細胞のみが染色された. **結論:**抗 SSNA-1 抗体は原発性シェーグレン症候群および MCTD に特異的な自己抗体であり, 抗 SSNA-1 抗体産生には, IP-10 と BAFF が重要な役割を果たしていることが示唆された.